氏名 小橋 真由
授与した学位 博士
専攻分野の名称 医学
学位授与番号 博 甲第 6794 号
学位授与の日付 2023 年 3 月 24 日
学位授与の要件 医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻
(学位規則第 4 条第 1 項該当)

学位論文題目 Endoscopic findings of gastric neoplasms in familial adenomatous polyposis are associated with the phenotypic variations and grades of dysplasia
(家族性大腸腺腫症における胃腫瘍の内視鏡所見は表現型差異と異型度に関連する)

論文審査委員 教授 平沢 晃 教授 山元英崇 准教授 榎田祐三

学位論文内容の要旨

家族性腺腫性ポリポーシス (FAP) の患者は、胃腫瘍の発症リスクである。FAP 患者の胃腫瘍とその表現型発現を調査し、内視鏡所見との関係を検証した。

11 名の FAP 患者の胃腺腫 23 病変、胃癌 9 病変について、胃腺腫は胃型(48%)・混合型(17%)・腸型(35%)、胃癌は胃型(0%)・混合型(56%)・腸型(44%)の表現型を示した。胃癌は、胃腺腫と比較して背景粘膜に萎縮を伴う発赤調の陥凹型病変として多く描出された。白色調の隆起型病変であった胃腺腫は、表現型によって更に細分した。すべての胃型腺腫は、胃底腺ポリープを伴う萎縮のない背景粘膜に、胃上・中部に乳白色調の平坦な隆起または突出した病変として描出された。病変の半分は観察期間中にサイズの増大を認めた。一方、腸型腺腫は、胃下部にピンク調の中央のくぼみを伴う隆起として認めるものが多く、サイズの変化は認められなかった。

これらの内視鏡の特徴は、FAP 患者の胃腫瘍の迅速な診断と適切な管理に役立つと考えられる。

論文審査結果の要旨

家族性腺腫性ポリポーシス (FAP) の患者は、胃腫瘍の発症リスクである。FAP 患者の胃腫瘍とその表現型発現を調査し、内視鏡所見との関係を検証した。

11 名の FAP 患者の胃腺腫 23 病変、胃癌 9 病変について、胃腺腫は胃型(48%)・混合型(17%)・腸型(35%)、胃癌は胃型(0%)・混合型(56%)・腸型(44%)の表現型を示した。胃癌は、胃腺腫と比較して背景粘膜に萎縮を伴う発赤調の陥凹型病変として多く描出された。白色調の隆起型病変であった胃腺腫は、表現型によって更に細分した。すべての胃型腺腫は、胃底腺ポリープを伴う萎縮のない背景粘膜に、胃上・中部に乳白色調の平坦な隆起または突出した病変として描出された。病変の半分は観察期間中にサイズの増大を認めた。一方、腸型腺腫は、胃下部にピンク調の中央のくぼみを伴う隆起として認めるものが多く、サイズの変化は認められなかった。

これらの内視鏡の特徴は、FAP 患者の胃腫瘍の迅速な診断と適切な管理について、重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。